

症例演習 V

科目責任者 吉原重美
学年・学期 4学年・後期

I. 前 文

4年生の前期までに臨床科目の講義はすべて終了しております。後期は、5年生から開始される臨床実習の準備の時期であり、また、国家試験に向けて第1歩を踏み出す時期でもあります。今回の症例演習では、国家試験の臨床問題に取り上げられている症例について、その問題点を分析し、解決への方策を学ぶことに主眼を置いています。従って、選択肢を除いた症例部分を中心に講義・演習が組み立てられております。とくにシラバスはありませんが、学生は、講義計画表に記載されている国家試験の問題番号を中心に予習をして下さい。この演習は5年生から始まる臨床実習や6年生の学習にも極めて有用かと思えます。

II. 担当科（教授）

小児科学	(吉原重美)
産科婦人科学	(深澤一雄)
越谷・産科婦人科学	(高倉聡)
越谷・小児科学	(松原知代)
病理診断学	(石田和之)
微生物学	(増田道明)
生化学	(杉本博之)

III. 一般学習目標

- (1) 重要な疾患を持つ患者さんの問題点を分析し、解決する能力を得る。
- (2) 臨床実習前に症例演習をする事により、臨床実習の効果を高める。
- (3) 思考能力を高め、6年生での国家試験を視野に入れた学習にスムーズに適応する。

IV. 学修の到達目標

- (1) 各コマで与えられた症例について、問題点、病態生理、診断、治療などを理解する。
- (2) 臨床実習に応用出来るように、理解の幅を広げる。
- (3) 一時的な知識の獲得ではなく、6年生までこれらの能力を保持出来るようにする。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	10	23	金	5	105I54 106D26 107A45	小児科学 吉原重美
2		23	金	6	107F19 107F22 107H24	小児科学 吉原重美
3		26	月	1	99G39 112F49	病理診断学 黒田一
4		26	月	2	103I17 111C1	生化学 伊藤雅彦
5		26	月	3	103E65~67	生化学 伊藤雅彦
6		26	月	4	110I56 104A50	生化学 伊藤雅彦

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
7	10	26	月	5	109H21 112B30 112B36	産科婦人科学 掛田 充 克
8		26	月	6	113F60 111G46 112D75	産科婦人科学 宮下 進
9		27	火	1	111E54 111G51 112D39	小児科学 福島 啓太郎
10		27	火	2	108I49 110G53 111I56	小児科学 福島 啓太郎
11		27	火	3	113F59 107D50 107I73 111E58	小児科学 栗林 良多
12		27	火	4	105B53 105B54 105B55 107G45	小児科学 今高 城治
13		27	火	5	108B42 109E45 109G48	小児科学 今高 城治
14		27	火	6	107D39 108A30 109A44 110D39 111I67	産科婦人科学 深澤 一 雄
15		28	水	1	113A37 113D33 113F52	小児科学 渡部 功之
16		28	水	2	113A37 110A55 111E43	小児科学 佐藤 雄也
17		28	水	3	110I48 109D51 109E52	小児科学 佐藤 雄也
18		28	水	4	108I42 110D30	小児科学 小山 さとみ
19		28	水	5	105G53 106E46 107E44	小児科学 小山 さとみ
20		28	水	6	105I53 105I67 106D45 106D60 107E41 107I42	越谷・産科婦人科学 濱田 佳 伸
21		29	木	1	110D42 111D24 110I63 109A56 112D71	センター 稲葉 未知世
22		29	木	2	111A21 109C21 113A49	産科婦人科学 坂本 尚 徳
23		29	木	3	111A28 112A65 112E30	産科婦人科学 坂本 尚 徳
24		29	木	4	108I51 112D36	教育支援センター 田 所 望
25		29	木	5	113A62 113B14 106I51 107D40 113D71	産科婦人科学 深澤 一 雄
26		29	木	6	105D35 107I44 112C40	越谷子どものこころ 作田 亮 一
27		30	金	1	105A56 105D28 105G58 106A40 106I47	産科婦人科学 北澤 正文
28		30	金	2	111E45 111E55 112A53 113F49	産科婦人科学 尾林 聡
29		30	金	3	109C21 112F59 113A15	教育支援センター 田 所 望
30		30	金	4	112C50 112B40 112E2	産科婦人科学 渡辺 博
31		30	金	5	113A51 112A69	微生物学 増田 道明
32		30	金	6	111B45 111I75 111G45 112D44 112C46	小児科学 鈴村 宏

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験を行い、評価する。

Ⅶ. 教科書・参考図書・A V資料

- (1) 今までに各科で指定した教科書および推薦図書。
- (2) Question Bank, Approach, 医師国家試験問題解説書。

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

質問等は各担当者に連絡をとり対応する。

X. 求められる事前学習，事後学習（カッコ内は所要時間の目安）

各授業で予定された症例について，問題点，病態生理，診断，治療など内容をまとめ質問に答えられるようにしておく（30分）。

XI. コアカリ記号・番号

C-3, D-1, D-6, D-9, D-15, E-2, E-3, E-7, F-1 他。